

普及活動情勢報告（平成30年5月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

本格的なミョウガの出荷に向けて～J A土佐くろしおが目慣らし会を開催～



着色具合を確認する生産者

ミョウガの出荷が本格的に始まるのに合わせて4月19、20、25、26日、J A土佐くろしおの大間・浦ノ内・上ノ加江の各集出荷場においてミョウガ部会「出荷目慣らし会」をのべ10回開催し、ほぼ全戸の217戸が参加しました。

会では、J A販売課が販売報告と出荷調製の注意点を説明した後、出荷規格に沿って色合いを中心に、生産者が等階級を確認しました。

農業改良普及課からは、遮光によるハウス内環境の改善と補助事業の活用による環境測定装置や細霧システム等の導入のメリットについて情報提供しました。今後は、夏場の腐敗防止対策についての指導をJ Aと連携して行います。

後作オクラの安定生産に向けて！ ～J A土佐くろしおオクラ部会現地検討会の開催～



説明を聞く生産者

5月17日、キュウリの後作ハウスオクラの現地検討会を開催し、生産者5名が参加しました。農業改良普及課は、トリコデソイル施用試験の途中結果やミナミキイロアザミウマの天敵スワルスキーカブリダニを用いた天敵利用技術について説明しました。トリコデソイル処理1ヶ月後のオクラの根を見て、参加者からは「主根が太い、全然違う」といった声が聞かれました。また、4月20日にスワルスキーカブリダニを放飼した後、一度も害虫の防除を行っていませんが、収穫されたオクラの果実に害虫の被害が見られません。参加者に実際に見てもらうことで、天敵利用技術の効果を実感してもらうことができました。

農業改良普及課は、今後も後作オクラの安定生産に向けて、情報発信を行っていきます。

サヤインゲンの安定生産に向けて！～環境制御技術の導入を推進～



目慣らし会の様子

4月27日、5月2日にJ A土佐くろしおインゲン部会の目慣らし会があり、生産者や集出荷場の作業員など、のべ42名（うち生産者25名）が参加しました。

会では、春先以降に発生が多くなる灰色かび病対策をしっかりと行うこと、選果・選別の徹底、収穫～調製までの間での異物混入の防止について、意見交換されました。

農業改良普及課からは、環境制御技術の導入のために、次作での環境測定装置等のPRをしました。生産者からは、「うちのハウスでは、どの環境測定機器が向いているか？」など、多くの質問がありました。

農業改良普及課は、次作での環境制御技術導入に向けて、生産者が集まる機会などを見つけて、推進していきます。

大野見米のさらなるブランド化を目指して！～おおのみエコロジーファーマーズ総会の開催～



総会の様子

4月27日、中土佐町役場大野見庁舎で、おおのみエコロジーファーマーズの総会が開催され、メンバー、関係機関など12名が参加しました。

総会では、平成29年度活動実績や平成30年度活動計画などが協議されました。その中で、大野見米のさらなるブランド化を目指して、平成30年度には、品評会へ出品することが承認されました。

農業改良普及課は、品評会に向けた栽培管理についての勉強会などを開催していき、おおのみエコロジーファーマーズとともに、大野見米のさらなるブランド化につながるように支援していきます。

更なる経営発展を目指して！～農業経営改善計画の策定支援～



面談中の様子

認定農業者が5年毎の農業経営改善計画認定申請書を作成するにあたり、農業改良普及課は関係機関とともに支援を行っています。

今回は、農業改良普及課の職員が花き園芸農家を訪問し、5年前の計画と現在の目標達成状況を確認するとともに、新たな目標設定と目標達成のための措置について話し合いを行いました。

また、農業が関連する地域活性化に係る意見交換も行い、農業改良普及課から農業分野以外の組織との連携方法や、産業振興計画及び補助金制度等についての情報提供を行ったことで、今後の認定農業者としての活動の選択肢の拡大につながりました。

農業改良普及課は、今後も担い手の経営発展に加えて、産業振興・地域活性化に向けた支援を行います。